

有明の丘研修（第2期）コースの単元の見直し ①「防災基礎」

資料1-1

No.	平成29年度第1期単元		平成29年度第2期単元	手法	単元の概要	学習目標
1	防災基礎総論	維持 86.64	防災基礎総論	座	防災・危機管理の基本的な考え方を学ぶ。	・ 防災・危機管理の基本的な考え方を説明できる。
2	ハザードのメカニズムと実態	維持 85.00	ハザードのメカニズムと実態	座	ハザードのメカニズムと災害による被害、防災対策を学ぶ。	・ 風水害のメカニズムとその被害について説明できる。
3						・ 風水害の防災対策の概要について説明できる。
4						・ 火山のメカニズムとその被害について説明できる。
5	地域の脆弱性と被害の実態	維持 91.82	地域の脆弱性と被害の実態	座	人的被害の実態や地域を知ることの重要性を理解し、防災情報に基づく避難について学ぶ。	・ 火山災害の防災対策の概要について説明できる。
6	防災行政概要	84.62	防災行政概要	座	防災活動全体の流れと個々の活動の基礎的な知識とともに、災害対策基本法・災害救助法などの災害関連法の体系や防災計画の概要を学ぶ。	・ 地震と津波のメカニズムとその被害について説明できる。
7	災害法体系	維持 80.98	災害法体系			・ 地震災害と津波災害の防災対策の概要について説明できる。
7	防災計画	84.91	防災計画			・ 自然災害による人的被害の実態を説明できる。
8	災害対応過程と態度を学ぶ	維持 86.58	災害対応過程と態度を学ぶ	演	災害対応過程と態度について具体的な事例に沿って学ぶ。	・ 地域の災害特性を知ることの重要性について説明できる。
9						・ 防災情報の種類や特性、情報を活用した避難のあり方について説明できる。
10	全体討論	維持 89.73	全体討論	演	防災力アップのため、災害対応の基本について学んだことを、受講者が担当する業務にどのように反映させるのかを考える。	・ 防災活動全体の流れについて説明できる。
						・ 防災活動の概要について説明できる。
						・ 防災活動に関連する法令の概要を説明できる。
						・ 防災基本計画の内容を説明できる。
						・ 地域防災計画の概要について説明できる。
						・ 災害対応過程と態度について具体的な事例に沿って説明できる。
						・ 研修受講の目的を再認識する。
						・ 研修を通じて、学び、得たものを整理する。
						・ 研修を活かして次につなげることを認識する。

有明の丘研修（第2期）コースの単元の見直し ②「災害への備え」

No.	平成29年度第1期単元		平成29年度第2期単元	手法	単元の概要	学習目標
1	「災害への備え」総論	維持 88.40	「災害への備え」総論	座	自助・共助・公助による「災害への備え」の基本的な考え方を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 災害予防の防災の中の位置づけ及び主な内容を説明できる。 災害予防における自助、共助、公助の意味と共助の重要性を説明できる。 防災における民間主体との連携のあり方を説明できる。 代表的な被害抑止対策について説明できる。
2	行政のBCM	維持 85.47	「災害への備え」としての地域防災計画	座	自治体が、地域防災計画や地区防災計画を具体的な施策として、どのように災害の備えに活用するのかを実践的に学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 地域防災計画の目的と概要を説明できる。 地区防災計画の目的と概要を説明できる。 地域の防災政策を進めるにあたっての防災計画等の活用について説明できる。
3	住民啓発・災害教訓の伝承	維持 83.75	防災教育・災害教訓の伝承	座	地域に根差した防災活動を実施するための防災教育と災害教訓の伝承について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 防災教育の意義と基本的な方法を説明できる。 学校教育又は課外活動における防災教育の具体的な事例を説明できる。 地域コミュニティ向けの防災教育の具体的な取り組み事例を説明できる。 災害教訓の伝承の意義と具体的事例を説明できる。
4	企業防災	維持 76.04	企業防災	座	企業が災害時に果たすべき役割を認識し、企業と行政が連携した防災活動について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 指定（地方）公共機関である企業の防災での役割と行政との連携を説明できる。 災害対応における企業の役割を説明できる。 災害協定の重要性と協定締結状況を説明できる。 企業の事業継続計画（BCP）の意義と特徴を説明できる。
5	「災害への備え」ワークショップ	維持 85.98	「災害への備え」ワークショップ	演	地方自治体の防災行政における自助・共助・公助の実践的な推進の仕方についてワークショップ形式で学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 所属団体の減災対策（災害予防）における自助、共助の促進策についての議論ができる。 官民連携のあり方についての議論ができる。
6	「災害への備え」としての地域防災計画	維持 91.35	行政のBCM	座	行政におけるBCMの意味と策定のポイントについて学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 行政のBCP、BCMの意義と必要要素を説明できる。 重要業務に不可欠なリソースの確保の重要性と主な方法を説明できる。 特に、行政庁舎の代替拠点の確保の必要性と選定方法を説明できる。 訓練、維持管理、見直しの重要性を説明できる。
7	防災教育・災害教訓の伝承	維持 84.12	住民啓発	座	住民啓発について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 住民向けの防災の啓発の意義と留意事項を説明できる。 地域の防災訓練の意義と基本的な方法を説明できる。
8	地域の自主的な防災活動	維持 87.10	地域の自主的な防災活動	座	住民の自主防災組織、地域の企業やNPO等の自主的な防災活動について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 自主防災組織の目的と制度概要について説明できる。 自主防災組織に期待される役割と現状、課題について説明できる。 地域の他の自主的な防災団体の役割と現状、課題について説明できる。
9	災害ボランティア	維持 92.12	災害ボランティア	座	災害ボランティアや企業や市民団体、個人等の自発的な防災協力について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 災害ボランティア及びその活動の位置づけ・種類・特長を説明できる。 災害ボランティアの受入れ・調整に関する現地での仕組みを説明できる。 災害ボランティアの活動の実際と課題、展望を説明できる。
10	全体討論	維持 89.43	全体討論	演	減災対策について学んだことを、受講者が自らの地方自治体でどのように反映させるのかを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 研修受講の目的を再認識する。 研修を通じて、学び、得たものを整理する。 研修を活かして次につなげることを認識する。

有明の丘研修（第2期）コースの単元の見直し ③「警報避難」

No.	平成29年度第1期単元		平成29年度第2期単元	手法	単元の概要	学習目標
1	警報避難総論	維持 → 89.68	警報避難総論	座	警報避難対策の基本的な考え方と事前対策を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 警報等の伝達及び避難誘導の目的、実施主体と役割について説明できる。 警報等の伝達及び避難勧告等の判断・伝達の流れについて説明できる。
2	警報等の種類と内容	維持 → 83.19	警報等の種類と内容	座	警報等の種類と内容、伝達を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 注意報と警報、特別警報の意義付けと意味について説明できる。 警報等の入手方法と伝達にかかる主体について説明できる。
3	避難勧告等の判断・伝達	維持 → 72.31	避難勧告等の判断・伝達	座	風水害における警報と避難の実務について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 風水害における警報と避難の実務について説明できる。 水害時における災害対応の難しさを説明できる。
4	風水害における警報と避難	維持 → 87.63	風水害における警報と避難	座	避難勧告等の判断と伝達方法について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 住民等の避難行動の考え方について説明できる。 避難準備・高齢者等避難開始や避難勧告等の判断に必要な考え方を説明できる。 避難勧告等を住民に伝達し、周知するための伝達方法について説明できる。
5	風水害におけるタイムライン計画演習	維持 → 86.17	風水害におけるタイムライン計画	演	風水害における警報と避難のタイムライン計画の作成方法について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 風水害における警報と避難のタイムライン計画の作成方法について説明できる。 外部/内部調整をタイムラインで整理する方法を説明できる。 決心ポイントとタイミングを説明できる。 実際の現場における決心・調整の難しさを説明できる。
6	土砂災害における警報と避難	維持 → 89.38	土砂災害における警報と避難	座	土砂災害における警報と避難の実務について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害における警報と避難の実務について説明できる。
7	土砂災害の事例に学ぶ	維持 → 88.76	土砂災害の事例に学ぶ	演	土砂災害の事例から土砂災害における警報と避難について、その実態を演習形式で学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害における警報と避難の難しさを説明できる。 土砂災害における警報と避難の決心ポイントを説明できる。 土砂災害における警報と避難にスネークラインを活用できる。
8	避難場所・避難所の認定	維持 → 86.45	避難場所・避難所の認定	座	住民等の避難行動の目的となる避難場所・避難所の種類とその設置要件を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所・避難所の種類と内容について説明できる。 避難場所・避難所の認定の方法について説明できる。 風水害で被災した避難所の事例を説明できる。
9	避難場所・避難所の認定演習	維持 → 80.71	避難場所・避難所の適否判断演習	演	災害ごとに避難場所・避難所の適否判断をするうえでの行動を演習形式で学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所・避難所の適否判断の基本的な考え方について説明できる。 避難場所・避難所の適否判断を適切に行うためのポイントを説明できる。 過去災害を事例とした避難所の適否判断を行う。
10	全体討論	維持 → 90.91	全体討論	演	防災力アップのため、警報避難について学んだことを、受講者が担当する業務にどのように反映させるのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 研修受講の目的を再認識する。 研修を通じて、学び、得たものを整理する。 研修を活かして次につなげることを認識する。

有明の丘研修（第2期）コースの単元の見直し ④「応急活動・資源管理」

No.	平成29年度第1期単元		平成29年度第2期単元	手法	単元の概要	学習目標
1	応急活動・資源管理総論	維持 87.91	応急活動・資源管理総論	座	応急活動の流れと資源管理に関する基本的な考え方について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応急活動の流れと業務の概要について説明できる。 ・ ロジスティクスの考え方について説明できる。 ・ 初動期の人命救助に係る活動と求められる資源管理について説明できる。 ・ 被災者の生活支援に係る活動と求められる資源管理について説明できる。
2	初動対応における国との連携	維持 79.81	初動対応における国との連携	座	政府の初動対応と現地支援本部の設置、被災自治体との連絡調整について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政府の初動対応について説明できる。 ・ 政府の現地支援本部設置の流れについて説明できる。 ・ 政府の現地支援本部と被災自治体との連携について説明できる。
3	地方公共団体間の相互応援と受援計画	維持 86.83・84.16	地方公共団体間の相互応援と受援計画	座	災害時の行政職員等による人的資源の確保について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応急活動の実施にあたっての行政職員の確保の重要性を説明できる。 ・ 行政機関の間で行われる応援受援の仕組みを説明できる。 ・ 外部からの応援を円滑に受け入れるための受援計画の策定方法を説明できる。
4	活動拠点・環境の確保	維持 75.48・89.63	災害廃棄物処理	座	被災地における資源確保の例として、災害廃棄物の撤去・処理の進め方と留意点を事例に基づき学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害廃棄物処理の意義と理念を説明できる。 ・ 災害廃棄物処理業務における県・市町村の役割分担と対応を説明できる。 ・ 災害廃棄物処理のための広域支援及び被災自治体としての事前準備を説明できる。
5	資源管理演習	維持 85.53	資源管理演習	演	災害対策本部における資源（人的、物的、空間・サービス）の確保、管理における留意点などを演習形式で考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な機関と連携して業務を実施する際の課題解決のための着眼点を説明できる。 ・ 応急活動を効果的に実施するために求められる活動拠点等を確保するうえでの着眼点を説明できる。
6	災害廃棄物処理	維持 84.14・88.07	救援物資の輸配送	座	救援物資の輸配送・保管に関する実務と課題などを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 救援物資の輸配送の実態について説明できる。 ・ 救援物資の輸配送を民間企業・団体と連携して行う際の留意点を説明できる。 ・ 救援物資の輸配送を円滑に行うための事前の備えを説明できる。
7	救援物資の調達	維持 89.09・88.57	救援物資ロジスティクス演習	演	災害時の救援物資の調達から輸送・保管・配布における留意点などを演習形式で学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 救援物資の調達業務の流れと留意点を、具体的に説明できる。 ・ 救援物資の倉庫業務の流れと留意点を、具体的に説明できる。 ・ 救援物資の輸配送業務の流れと留意点を、具体的に説明できる。
8	救援物資の輸配送	維持 88.55・88.85	救援物資の調達	座	救援物資の調達に関する実務と課題について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 救援物資の民間企業・団体からの調達の実態について説明できる。 ・ 救援物資を民間企業・団体から円滑に調達するための留意点を説明できる。 ・ 救援物資を民間企業・団体から円滑に調達するための備えを説明できる。
9	救援物資ロジスティクス演習	維持 87.36	活動拠点・環境の確保	座	応急活動を行うために必要となる活動拠点や通信サービス等の確保について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応急活動を行うために求められる空間確保（道路網、活動拠点等）について説明できる。 ・ 応急活動を行うために求められるサービスの確保（通信等）について説明できる。
10	全体討論	維持 88.04	全体討論	演	防災力アップのため、災害時の物資物流と広域的な応援体制について学んだことを、受講者が担当する業務にどのように反映させるのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修受講の目的を再認識する。 ・ 研修を通じて、学び、得たものを整理する。 ・ 研修を活かして次につなげることを認識する。

有明の丘研修（第2期）コースの単元の見直し ⑤「被災者支援」

No.	平成29年度第1期単元		平成29年度第2期単元	手法	単元の概要	学習目標
1	被災者支援総論	維持 84.20	被災者支援総論	座	被災者支援の全体像を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 被災者の状況を説明できる 被災者支援の実態を説明できる 被災者生活再建支援業務を説明できる 「被災者支援」理解の共有を図る
2	災害救助法と生活再建支援法	維持 88.96・79.71	災害救助法と生活再建支援法	座	災害救助法と生活再建支援法の位置づけ、被災者支援のための災害救助法と生活再建支援を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 災害救助法の概要を説明できる 災害救助法の各制度を説明できる 災害救助法の適用事例を説明できる 生活再建支援法の各制度を説明できる 生活再建支援金の事務手続きを説明できる
3	避難所のライフサイクル	維持 79.62	避難所のライフサイクル	座	避難所のライフサイクルを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 運営体制の確立（平時）を説明できる 避難所の運営（発災後）の基幹業務を説明できる 避難所の運営（発災後）のよりよい環境を説明できる ニーズへの対応（1）要配慮を説明できる ニーズへの対応（2）安全安心を説明できる 避難所の解消を説明できる
4	避難所運営の実際	維持 91.22	避難所運営の実際	座	過去の事例を基に避難所運営の実際を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 避難所のライフサイクルの事例を説明できる 災害時要配慮者のための避難生活支援の事例を説明できる 多様な主体による被災者支援の事例を説明できる 被災者支援の個別課題の事例を説明できる
5	避難所のライフサイクル（演習）	維持 84.71	避難所のライフサイクル（演習）	演	避難所のライフサイクルを演習形式で学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> トイレの確保・管理を説明できる トイレのモデルケースに基づくシミュレーションができる 衛生的な環境の維持を説明できる 避難者の健康管理を説明できる
6	避難生活の支援	維持 83.57・82.65	医療による被災者支援	座	医療による被災者支援を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 医療による被災者支援の必要性を説明できる 医療チームの活動を説明できる 医療支援のサイクルを説明できる
7	医療による被災者支援	維持 90.30	避難生活の支援	座	災害時要配慮者を始めとする避難生活への支援対策を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 福祉避難所の確保を説明できる 多様な避難先での支援を説明できる 要配慮者対応体制の確立を説明できる
8	多様な主体による被災者支援 ／ 被災者支援の個別課題	維持 83.80・85.90	多様な主体による被災者支援 ／ 被災者支援の個別課題	座	各種専門職能の連携による被災者支援と被災者支援の個別課題を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 多様な主体による支援を説明できる 避難場所での孤立を説明できる 遺体処理を説明できる 帰宅困難者を説明できる 広域避難者を説明できる
9	生活再建支援業務	維持 83.88・84.40・83.10	生活再建支援業務	座	生活再建支援業務を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 生活再建支援業務の全体像を説明できる 建物被害認定調査を説明できる り災証明書の発行を説明できる 被災者台帳の構築を説明できる
10	被災者支援のタイムライン策定（演習） ／全体討論	維持 82.40	被災者支援のタイムライン策定（演習） ／全体討論	演	被災者支援のタイムラインを策定する。	<ul style="list-style-type: none"> 被災者支援のタイムライン策定を説明できる 「被災者支援」理解の確認を図る

有明の丘研修（第2期）コースの単元の見直し ⑥「復旧・復興」

No.	平成29年度第1期単元		平成29年度第2期単元	手法	単元の概要	学習目標
1	復旧・復興総論	維持	復旧・復興総論	座	災害からの復旧・復興の概念、行政・被災者等の取り組みから生活、産業、社会、市街地の復興プロセスとその全体像を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 復旧・復興の理念を説明できる。 ・ 復旧・復興のプロセスを説明できる。 ・ 復旧・復興における被災者の取り組みと地方自治体の役割を説明できる。
2	公共基盤の復旧（基盤復興Ⅰ）	維持	公共基盤の復旧（基盤復興Ⅰ）	座	被災地・被災者の生活再建・復興の基盤となる、道路・公園・都市基盤施設・農業施設など被災した公共基盤の復旧・再建の理念とその対応業務の進め方について、事例を踏まえて学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活や地域機能を支える公共基盤（社会インフラ）の復旧・復興の意義と理念を説明できる。 ・ 公共基盤（社会インフラ）の災害復旧プロセスの概要を説明できる。 ・ 公共基盤（社会インフラ）の復旧・復興事業制度と取り組みの概要を説明できる。
3	仮設住宅（生活復興Ⅰ）	維持	仮設住宅（生活復興Ⅰ）	座	仮設住宅供給の意義と課題、借り上げ応急仮設住宅（見なし仮設）及び仮設住宅の建設についての県と市町村の役割分担、建設用地の選定や確保、入居と管理運営、撤去などの課題を事例に基づき学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 借り上げ住宅の確保と被災者への供給における県・市町村の役割分担を説明できる ・ 借り上げ住宅の入居と管理運営、解消の概要を説明できる。 ・ 応急仮設住宅の建設（用地取得・設計・発注）における県・市町村の役割分担を説明できる ・ 応急仮設住宅の入居と管理運営、解消の概要を説明できる。
4		維持				
5	コミュニティ再生（社会復興）	維持	コミュニティ再生（社会復興）	座	被災地復興における社会復興の重要性について、被災地における地域コミュニティの役割と意義、地域社会の再生・復旧・活性化の取り組み方、復興基金の意義について、事例に基づき学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域社会の再生や活性化の意義が説明できる。 ・ 地域社会の再生の取り組みのプロセスが説明できる。 ・ 地域社会の再生の事例や制度（復興基金の使い方等）を説明できる。
6	市街地の復興まちづくり（基盤復興Ⅱ）	維持	市街地の復興まちづくり（基盤復興Ⅱ）	座	土地区画整理事業など被災市街地の基盤整備によって安全で快適な市街地復興を実現する復興まちづくりの意義と基礎知識、計画の策定・推進にあたっての課題を、事例に基づき学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去の災害における被災市街地の課題と市街地復興の意義と体系を説明できる。 ・ 復興まちづくりにおける被災者の参加、意向確認など復興モニタリング調査の重要性を説明できる。 ・ 市街地復興に関する事業制度について、その目的、意義と事業の概要を体系的に説明できる。
7	住まいの再建（生活復興Ⅱ）	維持	住まいの再建（生活復興Ⅱ）	座	被災者の生活復興の基盤となる住まいの再建について、多様な仮住まいの確保、住宅の修理・個別再建・共同再建の支援、被災マンション再建の課題と支援、災害公営住宅の供給など、住宅復興とその課題について、体系的に学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被災者による住まいの再建の理念と支援の概要を説明できる。 ・ 被災住宅・被災マンションの再建プロセスおよび再建意向調査・支援のあり方を説明できる。 ・ 災害公営住宅の意義と課題留意点について説明できる。
8	地域産業の復興と雇用確保（産業復興）	維持	地域産業の復興と雇用確保（産業復興）	座	地域社会の活力を維持し、被災者の雇用確保を目指す視点から、被災地における産業復興の取り組みおよびその支援方策について、事例に基づいて基礎的な知識を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最近の災害における地域経済の被災とその課題を説明できる。 ・ 地域産業の復興における視点と支援のあり方を説明できる。 ・ 被災地における地域産業復興の取り組み事例と事業手法の概要を説明できる。
9	復旧・復興演習（復興計画の策定体制）	維持	復旧・復興演習（復旧・復興対策の事前準備）	演	地方公共団体は地域防災計画において、復旧・復興編を準備している。演習では、本コースで学んだことを踏まえて、自らの自治体の地域防災計画の復旧・復興編に照らして、何が不足しているのかを検証する。都道府県・市町村ごとに班分けし、復興対策の体系や体制について、演習形式で学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 復旧・復興のプロセスを想定し、提案できる。 ・ 復興における対象項目（計画課題）を提案できる。 ・ 復興計画策定の体制と住民・被災者参加の方法・仕組みを提案できる。
10	全体討論	維持	全体討論	演	受講者が、各単元について重要と考えた事項を書き出し、都道府県・市町村等の班で共有する。それらを踏まえ、事前に復旧・復興対策を準備しておく事前復興の取り組みについて、東京都における取組と経緯の概要を事例紹介から、自自治体で事前復興に取り組む可能性と課題を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京都における事前復興の事例から、災害復興の理念と事前の取り組みの意義を確認する。 ・ 研修を通じて、事前に取り組むことができる復興対策について整理する。 ・ 研修を活かして事前に取り組む、事前復興の意義とその可能性、解決すべき課題を認識する。

有明の丘研修（第2期）コースの単元の見直し ⑦「指揮統制」

No.	平成29年度第1期単元		平成29年度第2期単元	手法	単元の概要	学習目標
1	指揮統制総論	維持 86.54	指揮統制総論	座	災害対策本部組織の統制していくための理論と基本構造を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 災害対策本部組織を統制していくための理論を説明できる。 災害対策本部組織を統制していくための基本構造を説明できる。 危機対応の標準化と規格について説明できる。
2	指揮統制の現状	90.58	指揮統制の現状	座	大規模災害を経験したトップが指揮統制の本質を語る。	<ul style="list-style-type: none"> 経験を基にした指揮統制の実態と考え方を説明できる。
3		維持 80.72				
4	指揮統制の世界標準	維持 83.54	指揮統制の世界標準	座	世界標準における危機対応組織の仕組みを学び、リーダーに求められる4つの役割を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 危機対応組織の体制とその機能について説明できる。 指揮命令に関するルールについて説明できる。 二次災害を防止するための安全管理について説明できる。 危機対応組織の情報処理の標準化手法について説明できる。 状況認識の統一と災害対応計画の策定について説明できる。 とりまとめ報の作成と災害広報の手法について説明できる。
5	日本社会に適した指揮統制のあり方	維持 85.04・85.25	日本社会に適した指揮統制のあり方	座	大規模災害を経験したトップの指揮統制を世界標準に照らして検証する。	<ul style="list-style-type: none"> 15のチェックポイントがどのくらい実現できたのか説明できる。
6	リーダーシップ	維持 85.00	参謀にとっての災害対策本部運営	座	危機対応組織の参謀がどのようにトップを補佐しながら災害対策本部を運営していくのかについて学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 危機対応組織の参謀の役割を説明できる。 危機対応組織がトップを補佐する内容を説明できる。 情報収集から状況分析、意志決定に至るプロセスを説明できる。
7	参謀にとっての災害対策本部運営	維持 89.34	リーダーシップ	座	リーダーシップの理論と指揮命令を行うための要求事項を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> リーダーシップの基本的な理論を説明できる。 リーダーに求められる役割について説明できる。 リーダーとフォロアーの関係について説明できる。
8	災害広報演習	維持 87.96	災害広報演習	演	地方公共団体の災害広報の事例を踏まえ、地方公共団体の長や幹部は、被災者にどう向き合い、どう語るのかを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 被災自治体による広報活動の実態を事例から説明できる。 災害時の行政機関による広報の内容・方法を説明できる。 災害時の応報活動を適切に実施するための情報処理のポイントを説明できる。 記者会見におけるポイントを、視聴者の立場から説明できる。 記者会見時の内容（発言・態度等）に関する留意事項を説明できる。 記者会見の進行・運営における留意事項を説明できる。
9						
10	全体討論	維持 87.76	全体討論	演	防災力アップのため、指揮統制について学んだことを、受講者のそれぞれの組織でどのように反映させるのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 研修受講の目的を再認識する。 研修を通じて、学び、得たものを整理する。 研修を活かして次につなげることを認識する。

有明の丘研修（第2期）コースの単元の見直し ⑧「対策立案」

No.	平成29年度第1期単元		平成29年度第2期単元	手法	単元の概要	学習目標
1	対策立案総論	維持 85.07	対策立案総論	座	災害対応における対策立案の考え方と情報統括、活動サイクル、体制について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害対応における対策立案の位置づけを説明できる。 ・ 事前計画と当面の実行計画の関係について説明できる。 ・ 効果的な災害対応を動かすためのプランニング能力について説明できる。
2	計画立案プロセス	維持 88.16	計画立案プロセス	座	「当面の実行計画（インシデント・コマンド・プラン）」の果たすべき役割と基本的な構造、立案のプロセスについて学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画立案が扱う範囲を説明できる。 ・ 当面の実行計画について説明できる。 ・ 状況認識の統一について説明できる。 ・ 目標による管理について説明できる。 ・ 資源管理について説明できる。 ・ 当面の対応計画の構造について説明できる。 ・ 責任担当期間計画について説明できる。 ・ 災害対策本部の進め方について説明できる。
3	地図による状況認識の統一	維持 90.34	地図による状況認識の統一	座	統合された情報システムとGISの活用有効性について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 静的／動的情報の違いを説明できる。 ・ 統合された情報システムについて説明できる。 ・ GISの活用による地図作成手法を説明できる。
4	災害対策本部運営演習	維持 87.25	災害対策本部運営演習	演	災害発生後の限られた情報の中で状況を推測し、対応方針を検討し、計画を立案し、活動を調整しながら、災害対策本部会議において対策を決定する手法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織的な災害対応を行う際に、目標を設定する重要性を説明できる。 ・ 適切な目標の内容を、事例を挙げながら、説明できる。 ・ 設定した目標を、組織的に管理する方法を説明できる。
5						
6	効果的な災害対応計画・マニュアルの立案演習	維持 78.54	効果的な災害対応計画・マニュアルの立案演習	演	災害対応計画の果たすべき役割と基本的な構造、災害対策本部マニュアルの作成について、災害対応の事例を基に演習形式で学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務に階層があることが理解できる。 ・ マジカル7を理解する。 ・ 適切に担当者に業務を割り振ることができる。 ・ WBSという書き方を理解できる。 ・ WBSの構造で書かれたマニュアルが読めるようになる。 ・ WBSの構造でマニュアルを書けるようになる。
7						
8	応急期の政府支援	維持 88.77	応急期の政府支援	座	各省庁から提供される具体的な支援の内容について学ぶ。 (政府の全体的な初動対応は資源管理コース「初動対応における国との連携」を参照)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害応急期に実施される緊急消防援助隊の活動について説明できる。 ・ 災害応急期に実施される自衛隊の活動について説明できる。 ・ 災害応急期に実施される警察災害派遣隊の活動について説明できる。 ・ 災害応急期に実施される海上保安庁の活動について説明できる。 ・ 災害応急期に実施されるTEC・FORCEの活動について説明できる。 ・ 災害応急期に実施されるDMATの活動について説明できる。
9						
10	全体討論	維持 85.86	全体討論	演	災害対応マネジメントにおける計画立案について学んだことを、災害対策本部運営にどのように反映させるのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修受講の目的を再認識する。 ・ 研修を通じて、学び、得たものを整理する。 ・ 研修を活かして次につなげることを認識する。

有明の丘研修（第2期）コースの単元の見直し ⑨「人材育成」

No.	平成29年度第1期単元		平成29年度第2期単元	手法	単元の概要	学習目標
1	人材育成総論	維持 → 82.86	人材育成総論	座	人材育成の必要性や戦略、規定事項を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成の必要性を説明できる。 人材育成の規定事項について説明できる。 人材育成の手法の概要について説明できる。 人材育成の対象とポイントを説明できる。 人材育成のプログラム化を説明できる。
2	訓練・研修の実際	維持 → 81.08・85.94	訓練・研修の実際	座	国や地方自治体等が実際に実施している訓練の事例を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 国が実際に実施している訓練の事例を説明できる。 地方公共団体が実際に実施している訓練の事例を説明できる。 各種研修機関が実施している研修の事例を説明できる。
3	地域防災リーダーの育成	維持 → 85.22	地域防災リーダーの育成	座	地域における防災リーダーの育成の意義と研修の企画、実施手法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 住民への防災教育を行う人材の必要性を説明できる。 地域の防災リーダー育成のための研修を企画することができる。 様々な手法を使って防災リーダー研修を実施することができる。
4	訓練企画運営実践 I 討議型図上演習	維持 → 88.63	訓練企画運営実践 I 討議型図上演習	演	訓練手法のうち討議型図上演習の一つであるエスノグラフィー演習を経験すると共に、様々な素材を用いたケースメソッドの考え方を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 状況付与型図上演習の内容を説明できる。 状況付与型図上演習の企画の考え方を説明できる。 状況付与型図上演習の評価の考え方を説明できる。
5						
6	訓練企画運営実践 II 状況付与型図上演習	維持 → 87.69	訓練企画運営実践 II 状況付与型図上演習	演	訓練手法のうち状況付与型図上演習の一つである災害対策本部運営訓練を経験すると共に、様々なシナリオを用いた状況付与型図上演習の考え方を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 討議型図上演習の内容を説明できる。 様々な素材を用いた討議型図上演習の内容や考え方を説明できる。 討議型図上演習を実施する上での留意点を説明できる。
7						
8	訓練・研修企画手法	維持 → 73.38	訓練・研修企画手法	座	防災訓練・研修を企画する際のポイントを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練・研修の体系を説明できる。 各種防災訓練・研修の特徴を説明できる。 防災訓練・研修の企画と留意点を説明できる。
9	人材育成プログラム 作成演習	維持 → 88.40	人材育成プログラム 作成演習	演	人材育成プログラムの作成手法や留意点について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成プログラムの作成方法や留意点を説明できる。 様々な訓練・研修を組み合わせた人材育成プログラムを作成できる。
10						

有明の丘研修（第2期）コースの単元の見直し ⑩「総合監理」

No.	平成29年度第1期単元		平成29年度第2期単元	手法	単元の概要	学 習 目 標
1	総合防災政策	維持 89.31	総合防災政策	座	総合的に防災政策を推進していくことの基本的な考え方を予防対策から応急対策・復旧復興への流れに沿って学びます。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予防対策に関する防災政策の基本的な考え方を説明できる。 ・ 応急対策に関する防災政策の基本的な考え方を説明できる。 ・ 地域の防災力をどのように向上させるのか基本的な考え方を説明できる。
2	総合的な被害抑止施策の実施	84.57	総合的な被害抑止施策の実施	座	防災政策のうち、被害を抑止するための構造物や建築物に対する対策について学びます。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水害をどのように防ぐのか総合的な水防対策を説明できる。 ・ 土砂災害をどのように防ぐのか砂防事業の方針と地域の課題を説明できる。 ・ 建築物に対する耐震化と室内安全対策について説明できる。 ・ 都市防災事業の先進事例を説明できる。
3		維持 81.22 82.00				
4	リスク評価に基づく災害対応の検証	維持 83.76 82.27	リスク評価に基づく災害対応の検証	座	防災アクションプランの策定手法であるリスク評価→施策目標の設定→事業評価指標の設定→進捗管理→検証→事業見直しといったサイクルについて学びます。	<ul style="list-style-type: none"> ・ リスク評価と被害想定ของ考え方について説明できる。 ・ リスク評価に基づく防災政策への反映について説明できる。
5	防災政策演習	維持 93.67	防災政策演習	演	具体的な被害想定を基に、どのような防災政策を立案して推進していくべきか、地方議会での常任委員会模擬答弁の作成を通じて考えます。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被害想定を基にした防災政策の立案方法を説明できる。 ・ 減災目標を定めた防災政策の推進手法を説明できる。 ・ 災害予防対策の留意点と課題を説明できる。
6	応急対策の実態	維持 92.41	応急対策の実態	座	災害対策本部における重要業務と応急活動の実態について学びます。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害対策本部における災害応急活動の実態について説明できる。 ・ 広域防災拠点ネットワークと緊急輸送路ネットワークの考え方について説明できる。 ・ 国や都道府県、市区町村、各種関係機関との広域応援の考え方について説明できる。
7	大規模災害の検証と対応	維持 73.78	大規模災害の検証と対応	座	大規模災害がどのように検証され、どのような対応方針が示されているのかを学び、今後の災害への反映を考えます。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模災害の検証結果を対応にどう反映させるのか説明できる。
8	災害対策本部体制	維持 88.33	災害対策本部体制	演	災害対策本部体制を構築するために必要な組織や機能、空間レイアウトなど事前に準備すべきことを学び、災害対策本部運営の流れと心構えを演習形式で学びます。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害対応におけるプロジェクトマネジメントとしての災害対策本部体制の枠組みを説明できる。 ・ 災害対策本部体制を構築するために必要な組織を説明できる。 ・ 災害対策本部体制に求められる機能を説明できる。 ・ 災害対策本部に必要な空間レイアウトを説明できる。 ・ 災害対策本部運営の流れを説明できる。 ・ 災害対策本部運営の心構えを説明できる。
9						
10	全体討論	維持 88.84	全体討論	演	総合防災政策立案について学んだことを、受講者がそれぞれの自治体でどのように反映させるのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修受講の目的を再認識する。 ・ 研修を通じて、学び、得たものを整理する。 ・ 研修を活かして次につなげることを認識する。